

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Male intake of omega-3 fatty acids and risk of intimate partner violence perpetration: a nationwide birth cohort – the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

男性のオメガ 3 系脂肪酸摂取量と配偶者に対する暴力の関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Epidemiology and Psychiatric Sciences

年: 2022 DOI: 10.1017/S2045796022000294

筆頭著者名: 松村 健太

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

青魚に多く含まれるオメガ 3 系脂肪酸には暴力的・攻撃的行動の抑制効果があることが知られている。しかし、男性のオメガ 3 系脂肪酸の摂取量と、妊娠中の配偶者(パートナーを含む)への暴力(DV)との関係性については知られていない。そこで本研究では、この関連について調べることを目的とした。

方法:

エコチル調査に参加している男女 48,065 組を対象とした。男性のオメガ 3 系脂肪酸の摂取量は、食事摂取頻度調査票で調査し、総エネルギー量で調整を行った。妊娠中後期に妊婦が調査票で報告した暴力(身体的暴力による怪我の経験、侮辱されたり罵られたりといった感情的虐待)をアウトカムとし、潜在的交絡因子を考慮し一般化混合加法モデルを用いた解析を行った。欠損値には多重補完法を用いて対処した。

結果:

摂取量が非常に高い場合を除き、オメガ 3 系脂肪酸摂取量が高いと配偶者に対して暴力を振るう者の割合が低く、この傾向は身体的暴力、感情的虐待のいずれでも認められた。摂取量が非常に高い場合を含めると、全体として右肩下がりの U 字型カーブを描く関係にあり、暴力の頻度の最低値は身体的暴力、感情的虐待のいずれでもオメガ 3 系脂肪酸摂取量の 70 パーセンタイル(2.2 g/day 付近)付近で認められた。それ以上の摂取量では、横ばいないしは緩やかな上昇が見られ、摂取量の 99 パーセンタイル値を越えるまで最低値と違いはなかった。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果より、摂取量が非常に高い場合を除き、オメガ 3 系脂肪酸摂取量が高い男性は、配偶者に対して暴力を振るうリスクが低いことが示唆された。非常に高い摂取量にならないと配偶者への暴力のリスクは増加せず、摂取量が高い方はまれにしかないというオメガ 3 系脂肪酸摂取量の分布を考慮すると、人口全体としてオメガ 3 系脂肪酸を気持ち多めに摂取するよう心がけることで、配偶者に対する暴力行為を減らせるかもしれない。本研究の限界としては、観察研究であるため因果関係はわからないこと、エコチル調査に参加した妊婦に対して約半数の男性しか参加していないこと、暴力について非常に単純な質問項目を用いていることなどがある。

結論:

極端に摂取量が高い場合を除き、男性のオメガ 3 系脂肪酸摂取量が高いと、配偶者に対して暴力を振るうリスクが低いことが示唆された。